

令和5年度第2回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和5年6月15日（木）午前9時30分～午前11時10分

ところ：市役所6階 大会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）
傍聴者 なし

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について（報告）

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和5年度姉妹都市小平町との青少年交歓交流事業について
- (2) 令和5年度非核平和学習事業について

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（5月）について（報告）
- (2) 夏休み学習室・夏休み学習支援室について
- (3) 令和4年度小平市立公民館事業実績について

【図書館】

- (1) 第4次小平市子ども読書活動推進計画の策定に係る市民意見公募手続における意見の把握漏れについて
- (2) 令和5年度こだいら子ども読書月間について（報告）
- (3) よるのおはなし会について
- (4) 夏休み家族一日図書館員について
- (5) 令和4年度小平市立図書館事業統計について

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 平和学習で、まだロシアのウクライナへの攻撃が続いているので、毎年おなじみの展示ではなく、非核平和を願う強い気持ちを感じられる展示にしてほしい。

なかまちテラスまつりのとき、のぼり旗や立て看板もなく寂しいと思った。公民館は地域づく

りの拠点の大切な場なので、地域に開いて公民館の活動を知ってもらい、皆さん一緒にやりませんかとアピールできればいいと思った。

また、ドアの鍵がドアの一番下のほうについていて開けにくい。これから建て替え等の際は利用者のことを考えて設計してほしい。

なかまちテラスまつりに、中・高生も参加し、作品展示だけでなく模擬店の手伝いなど、LINKSの活動として取り組んでいた。利用者の立場から言うと、まつりの中で利用者の学習成果の発表が削られたが、できればLINKSのまつりと利用者の学習成果の発表を分けられればと思った。

○事務局 毎年度、広島平和記念資料館から展示物を借りて展示をしているが、最近の社会情勢等も伝える内容がもしあれば、考えていきたい。

○事務局 まつりのアピールは、建物に表示しなくても、道路、敷地内に表示をするなど工夫できると思うので、今後の研究課題とする。

現在の鍵の位置について、今すぐに直すことは難しいが、今後の建替えが進められている小川西公民館や中央公民館など、利用者が使いやすいよう設計の際に意見をしていく。

中・高生の参加について、まつりは多世代の皆さんが交流する場の一つと考えており、可能であれば、サークルの活動を若い人に教えるなど、老いも若きも一緒に活動ができるまつりが理想的と考えているので、利用者の意見も伺いながら柔軟に対応できるよう進められたらと思っている。

○委員 資料No.8の子ども読書月間に絡んで、読書ノートの配布が子どもだけで、これを出したら賞状がもらえる。子どもは賞状で喜ぶのか分からないが、もう少し子どもの喜ぶようなものを用意したらいいのではと思った。もし継続して行うなら、毎年カードなどを変えて集めるなど楽しく工夫したらいいと思った。

大人も本離れはすごく深刻だと思っている、よく利用する図書館はお勧め本のコーナーがあり、ふだん全く目にしない本があって借りることもある。旅行に行ったときに大きな図書館をのぞくようにしているが、職員のお勧めの本が飾ってあって、いわゆる本屋大賞のような、すごくインパクトがあって、ぜひ読んでみたいと思うような本が並んでいて、カードのコメントが添えられて、職員のやりがいにもつながる、そういう工夫ができたらいと思った。

ホームページも大分きれいになって使いやすくなっているが、逆に利用者から私の推しみたいな本を推薦するコーナー、市民などからも発信できるコーナーがあったら面白いと思った。

スマートフォンの図書館のページ、ログインしようと思うと、蔵書照会をして、そこからできないとログインできない。普通ログインの小さいボタンが一番最初のトップページにあるが。

○事務局 令和5年度に読書ノートを行ったが、毎年試行錯誤しながら取り組んでいる。ご意見を参考に令和6年度以降の施策に反映していく。

大人の読書離れもかなり進んでおり、ふだん目にしない本との出会いや、全然知らないこととの出会いは重要なことだと思う。他の図書館でいろいろな取組みなども勉強しながら、新しいことにもトライをしていく。

スマートフォンのログインについて、図書館のシステムは来年度以降に新しいシステムに更新すると思うので、その際にレイアウトなども含めて検討していく。

○委員 公民館イベントで、各校からの絵画作品を展示したり、放課後子ども教室での取組をコラボレーションしたりと、発表の場として用意していただき、感謝している。

ここから先、限られたスペースと日数との中でどう充実させていくのか。各小学校やコーディネーターに、広く企画を募ったり、参加を募ったり、より広がりのある公民館まつりになると楽しいと思う。また、さらに地域に開いて、学校にも開いていくと楽しいと思った。

○事務局 これからも学校との連携は一つ大きな課題と認識しており、様々な工夫に努めていく。

○委員 公民館まつりで、作品を展示してもらったお子さんが保護者と見に行けてとてもうれしかった、誇らしかったと。よさこいに初めて参加した方も、ドキドキしたけどみんなと踊れてよかったと、そこに学校の先生、校長先生も見に来てくれてすごうれしかったという声も聞こえた。学校でも作品展などあるが、学校の外で発表してもらおうということが大変子どもたちにとってはモチベーションが上がるいい機会なんだと感じた。

資料No.5の夏休み学習支援室、ここに学習支援ボランティアが支援すると書いているが、以前この学習支援ボランティアの養成講座が開かれたと思うが、どういった方が学習支援ボランティアをしているのか。

資料No.11の11ページ、学級文庫の貸出しで、ゼロの学校もあり、以前は学級文庫の本を選ぶのはボランティアにお願いして一緒にやっていたが、コロナでそのボランティアに選んでもらう作業がなくなり図書館から選んで貸出しという形に変わった。今後はどのような形になっていくのか。

○事務局 学習支援室のボランティアの養成講座について、かなり前にそういった取組をしたと記憶しているが、その後、養成講座などは行っていない。今までボランティアとして参加した方に声かけをして継続している。

○事務局 図書館の本を貸し出す学級文庫は、以前のような形とは違う形で対応していかざるを得ない部分があると捉えている。学校の側でどちらがいいか決められない部分もあると思う。いずれにしても図書館としては対応して児童に本を提供していきたい。

○委員 資料No.11の図書館事業統計の中で思ったのは、小平市の人口が毎年増えている中で、貸出密度はすごいと思って、7.13となっている。この数字を調べてみて、普通、杉並区などを見ると3から4、5となっている。小平市はこのように貸出数が多いと、人口を調べて思った。

もっとすごいと思ったのは、3ページにある蔵書の新鮮度、12.7と構成比が出ているが、これも杉並区を見たら7とかなので、一定サイクルで新書を入れて取り組んでいると感じた。

そこで思ったのは、公民館ではアンケートを取っているが、図書館ではアンケートを取っていないので、アンケートを取るといいと思った。

○事務局 図書館の統計では、多摩地区の中では小平の数字は平均ぐらいである。図書の新鮮度に関して新しい図書を入れることは、今後も取り組んでいきたい。

また、アンケートについて、図書館の中で随時行っているものはないが、ご意見箱はあり、そ

ここで随時要望や意見はいただいている、対応できるものは対応している。何か大きな案件があった場合にはアンケートなどを行って対応していきたいと考えている。

○委員 資料No.11の図書館事業統計の4ページに年齢別利用状況があり、一番上が未就学児、次が小学生、これで見ると小学生までが割と増えてきて、中学生、高校生で減って、また社会人になると増えてくると読み取れる。資料No.8、9、10で小学生に向けて事業を行うのはとてもいい取組だと感じている。少ないところに向けて取り組むのも大事だが、少なくなる前の方たちに働きかけるのは、その先を見越して人生100年時代という意味で、小さい頃から接触の機会というのか、そういったことを見込んで取り組んでいると思う。この取組も毎年工夫がされているようなので、より図書館を身近に感じる市民が増えていくのではないかと思う。この取組はすばらしいという思いで意見した。

○事務局 特に若い年齢層に向けた事業は力を入れていきたいと思っている。コロナの間に完全に止まってしまった時期もあり、去年ぐらいからようやく再開をしてきた。また、以前と全く同じ形ではなく、時代の変化に合うように知恵を絞って新しい事業にも取り組んでいきたい。

○委員 市報こだいら5月20日号にティーンズ委員会メンバー募集と出ていた。このティーンズ委員会、なかまちテラス、とてもいい企画だといつもこの会議で話題になるが、この委員は継続なのか1年で終わりなのか、内容を教えてほしい。

公民館の事業でソロキャンプを始めましょうという募集が出ていたが、公民館でキャンプをやるのか、西のほうに子どもキャンプ場があるが、そういうところを使うのか。

看護師をやっている関係で、今、小学校の高学年、中学生、それから大人のコロナがかなり出ているが、今日の教育委員会だよりも学級停止や出席停止のことが書いてあったが、学校の対応について教えてほしい。

○事務局 なかまちテラスで行っているティーンズ委員会について、事業としては、単年度ごとの事業で、毎年募集をして、中学生、高校生が参加している。参加をしている生徒で継続して参加している方も一定数いる。

○事務局 ソロキャンプを始めようについて、講座を4回行い、1回目は座学、2回目、3回目は子どもキャンプ場を活用して現地で実習、4回目が座学、まとめという流れになっている。内容は、テントの張り方、かまどのつけ方、実際に飯ごう炊飯を行うという形を予定している。

○委員 コロナの感染状況は収束している感じが無いと思う。小学校現場は5月8日の5類移行に伴って、今まで行っていた全児童に対する健康観察カードの記入並びに提出は終わっている。マスクの着用は、それ以前、4月1日の段階で学校としては積極的に求めない、8日以降については各自の判断に委ねるという形。

学校現場としては、これから暑くなってくるが、換気をしっかりしてエアコンをフル回転しながら窓を開けている。

前向き給食は各学級の判断、各校の判断という形で一律に求めないという方針でやっている。それ以前の問題として、和やかに談笑しながら食事をとることについては、もう既に4月の5類になる前から解禁されている。しかし、おしゃべりをしながらご飯を食べるのはマナーに反する

ことでもあるので、そういった意味でのマナー指導や礼儀正しさであるとかについては各学級で指導は徹底している。給食のおかわりについても今はコロナ以前の普通の形に戻っていると思う。

基本的にはコロナ前に戻すというのが基本で、インフルエンザと同じ扱いで流行性のウイルス炎ということで、出た場合にはそれと同じ対応で進めていく。

○委員 たくさん図書を購入しリニューアルしてすばらしいと思うが、裏返せば大量の廃棄本が出ていると思う。その大量の廃棄本の扱いが分からないが、例えば学校でどうぞお持ちください、青少対のお祭り、保護者の一日公開や地域の方が集まるような場でどうぞお持ちくださいと。廃棄本をもう有効活用しているなら構わないが、もし学校や地域活用できるなら、そういった連携もしていければいいと思った。

○事務局 図書館で新しい本も買っているが、一方で古くなった本、あるいはボロボロになった廃棄本も毎年出ている。廃棄本をどのようにしているかという、本棚から外して登録を外す。その後、各図書館でブックリサイクルという名称で、例えば図書館の外側のロビーなどに可動式のブックトラックに置いて、施設を利用する方にご自由に持ちくださいということでお渡ししている。かなりの数が毎回はけている。

学校などでの活用については個別に連絡をいただければ対応はできると考えている。

○委員 小平市の教育にも大変資する活動のヒントがありそうなので、よろしく願います。

○委員 資料No.11の図書館事業統計の4ページ、小学生相当の利用は12%で非常に高い。これは団体貸出しも含むのか。

○事務局 4ページの年齢別利用状況の利用者は、実際に図書館で利用カードを使用して利用した方で、団体貸出しは含んでいない。

○委員 合わせるとすごい数になっている。この若年層に向けて、図書館、教育委員会指導課と本当にうまく功を奏しているという形だと思う。

公民館まつりの中で模擬店があるが、飲食を伴うものができたのか。

○事務局 なかまちテラスが綿菓子とポップコーン、それから仲町の商店会による各種お弁当の販売を行った。和菓子の販売もあった。花小金井南公民館では、花小金井の和菓子店に協力いただきお赤飯とみたらしだんごの販売、休憩所でお茶の提供という形だった。

○委員 おまつりではどうしても食べ歩きや食べながらしゃべると、そういうことが起きると思っている。問題なく、マナー違反もなくできたと考えていいか。

○事務局 全てを確認したわけではないが、特に花小金井南公民館などでは、休憩所として椅子とテーブルをすぐ横に置いて利用できるようにしていた。仲町公民館については非常に敷地が狭いので、ちょっとお休みするのが難しく、今後研究しないといけないと考えている。それぞれ保健所に届出を済ませ所定の手続きは行っている。

仲町公民館については、なかまちテラスカフェがあり、ゆっくりと過ごしている様子を拝見した。

<その他>

○委員 市報に、令和6年度から使用する小学校教科用図書の採択について出ており、市民の方々にも広く、教科書が各図書館を回って見られるようになっている。それぞれに特徴のある教科書が並んで一律に見られるのはこの機会しかないので、市民の方々にも見ていただき、ご理解いただくと大変ありがたいと思う。

新しい教科書で非常に特徴的なのは、今回はマイナーチェンジであるはずなのにすごく変わっている。特にICTとタイアップしたQRコードがすごく充実していて、どこの教科書会社も端末を利用しての教科書活用をすごく意識している。興味があれば、ぜひ図書館に足を運ばれたらと思う。